

Expand Your World

子どもたちが自らの世界を広げ、
力強く輝いてほしいという
願いがこめられています。

12号



○書くスキル の学習とは

今回は、「書くスキル」の学習についてご紹介します。

SOLANでは、国語の学習の中でも、「書くこと」を取り出し、「書くスキル」の時間として毎週取り組んでいます。国語には、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の3つの領域があります。その中でも、「漢字」や「書くこと」をあえて取り出して学習している理由は、書く力は、たくさん練習しながら、正しい型を学んでいくことが大切だからです。

年間の目標は、「240字程度の文章を、30分で書けるようになること」です。書く力を伸ばしていくためには、大きく3つのステップがあります。

① よく読むこと

まずは、よい文章をたくさん読むことが大切です。

② 書き方を学ぶこと

文章の組み立て方や、よく使う表現などを学びます。

③ 実際に書いてみること

実際に自分で書きながら、試行錯誤を通して、よりよい表現を身に付けていきます。

具体的には、「書くスキル」の時間で、次のような流れで学習しています。

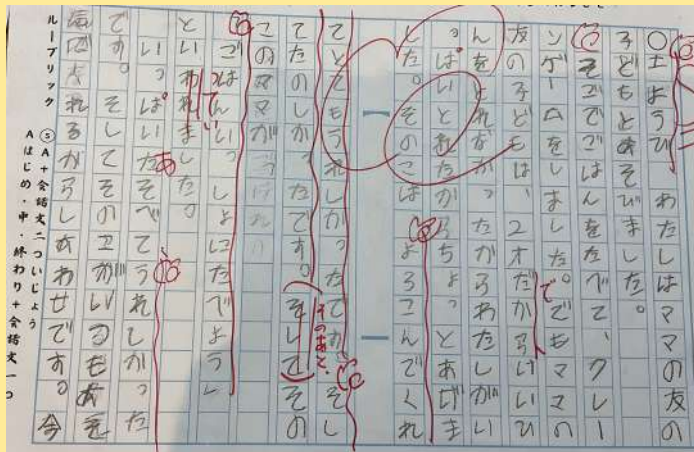
① 見本の文章を読む（はじめ・中・おわりに分ける）

② なぞり書きをする

③ 見本を参考にしながら、自分で考えて書く

特に、なぞり書きは、「読む」と「書く」を同時に行う、とても大切な学習です。教師側は、「どんな表現がよいのか」「どんな書き方をすると伝わりやすいのか」という基準を示しながら指導しています。今は、まず、「たくさん書くこと」「時間いっぱいまで書こうとすること」を大切にしています。

なぜなら、文章は、まず量を書けるようになって初めて、「どの表現を選ぶか」を考えられるようになるからです。正しい書き方を学びながら、何度も書いて試していく。その中で、よい表現を紹介しながら、少しずつ書く力を伸ばしています。



○ 1Qで取り組んできたこと

【書写】

ていねいに字を書く時間です。自分の字にじっくり向き合いながら、心を整える時間として捉えています。月に1回ほど取り組んでいます。

【日記の書き方】

- ① 時間の順番に書く
- ② 気持ちを入れて書く

【書くスキル】

- ① 「はじめ・中・終わり」で、好きなスポーツを書く
- ② 「はじめ・中・終わり」で、学校の中で好きな場所を書く
- ③ 「はじめ・中・終わり」で、好きな授業を書く
- ④ 会話文を入れて、最近あった出来事を書く
- ⑤ オノマトペを使って、最近あった出来事を書く
- ⑥ オノマトペを使いながら、より詳しく文章を書く

※学習発表会では、この「書くスキル」の学習の様子をご覧いただく予定です。

○ 「はじめ・中・終わり」はハンバーガー！

子どもたちには、「はじめ・中・終わり」の文章構成を、ハンバーガーにたとえて説明しています。「はじめ」と「終わり」はパン、「中」は具材です。

子どもたちに、「中身がスカスカのハンバーガーと、具がたくさん入ったハンバーガー、どちらがいい？」と聞くと、ほとんどの子が「中身がいっぱいの方！」と答えていました。

文章も同じで、「中」の内容が充実しているほど、読み手に伝わりやすくなります。そのため、書くスキルでは、気持ちや様子をくわしく書くことを大切にしながら学習を進めています。

○ 学習発表会でのサポートとご家庭での日記サポートについて

学習発表会では、「最近あったこと」をテーマに、オノマトペを取り入れた文章を書く活動を行います。限られた時間の中で、どうすればより伝わる文章になるかを考えながら、一生懸命に書く子どもたちの姿をご覧いただければ幸いです。

また、途中から保護者の皆様にもサポートをお願いする時間を設けています。子どもたちの頑張りを認めながら、「こんな書き方もあるね」「そのときはどんな気持ちだったの？」などと声をかけていただければと思います。

日記や文章を書くときは、「うまく書けたか」だけでなく、「何を伝えようとしているのか」を受け止めることが大切です。低学年の子どもたちは、「考えること」と「話すこと」が強く結び付いています。そのため、「今日は何をしたの？」「そのとき、どんな気持ちだったの？」と話を聞いてあげるだけでも、書きたいことが整理されることがよくあります。

また、書いている途中で迷っているときには、「それ、おもしろいね」「そのことを書いてみたら？」と背中を押してあげることで、自信をもって書き進めることができます。

まずは話し相手になりながら、「〇〇さんの考えていることを知ることができてうれしいな」と、書いて伝えようとしていること自体を認めてあげてください。その積み重ねが、子どもたちの書く力や表現する意欲につながっていきます。

ぜひ学習発表会でも、お子様の書こうとしていることを受け止めながら、温かく声をかけていただければ幸いです。